

愛知県高等学校国際教育研究協議会（AKK）令和4年度研究大会を本校で開催しました

令和5年1月27日（金）

1月27日（金）の午後に、「愛知県高等学校国際教育研究協議会（AKK）令和4年度研究大会」が本校興学館を会場にして開催されました。

当日は、朝から雪が降る天候にもかかわらず、愛知県内の加盟校から多数の参加者にお集まりいただきました。

まず、13時20分から始まった役員会では、今年度の本会の取組と次年度の計画が承認された後、次年度の会長校が刈谷北高等学校であることが確認されました。

13時50分からの研究大会では、高等学校教育課の武田尚士指導主事、独立行政法人国際協力機構（JICA）中部センター所長の小森正勝様から来賓の御挨拶を賜りました。

JICAからは他に市民参加協力課の江口様と遠山様にも参加していただきました。本校が今年度来館者100万人目の栄誉を受けた関係で、このような対応をいただきましたことを、ここに感謝申し上げます。



研究報告では、まず名城大学附属高等学校教育開発部長の羽石優子先生から「探究を軸とした海外研修」というタイトルで発表をしていただきました。

同校では本年度に入り少しずつ海外研修が復活してきたということ、その海外研修を軸にした探究活動のサイクルが、大きなテーマの探究活動を進めるうえで役に立っているということ、具体的な事例を挙げて御説明いただきました。

次に本校の伊藤和明先生が、「今後の海外交流に必要なポジティブ3Cs」というタイトルで、先生が津島高校で行ってきたバンコクや昆明とのオンライン交流を実践するための準備や苦勞をお伝えいただきました。

伊藤先生独特の語り口で時々ユーモアも交えながら、JICAタイ事務所やJICAパキスタン事務所との連携やVR留学体験の導入など他校にはない取組も御紹介いただきました。

どちらの研究報告も参加者の先生方にとって、国際交流を再開するのに力強い助けになったと思います。



会の最後に、加盟校の皆様と同会の会誌である「国際交流」第47号の発行について御協力いただいたことに感謝を伝え、会を閉じました。

参加した先生方が本校を出るころには、雪もやんでいました。まるでコロナ禍も終息し、加盟校全てがさらに国際教育を推進できる時がいよいよやってきたと感じさせるような空模様でした。

教頭 金澤 学